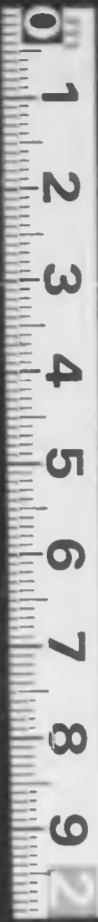


週寫眞
報

情報局編輯

五月五日 第二十七百一號

二百七十億
突擊





わが蓄めしいさゝかの金
 けふも鋼鐵の艦となり
 南海の敵を撃つ

わが積みしそこばくの金

けふも銀翼となり

大東亞の空に飛び立つ

撃ちてしやまむ

この暮しなほゆとりあり

否 この暮しゆとりなくとも

「時の立札」は他へ轉載その他に御利用下さい

倅は九段の若櫻

靖國神社春の臨時大祭
 嚴かに執行さる



大君の醜の御術として雄々しくも大東亞の戦さの場に散華した忠魂一万九千九百八十七柱がこの國護る新祭神と神蹟まり給ふ靖國神社春の臨時大祭は、四月二十二日の招魂式の儀に引きつゞき、二十三日から二十八日まで嚴かに執行はれた

畏くも 天皇 皇后兩陛下には二十四日靖國神社に行幸行啓遊ばされ、新祭神をはじめ護國の英雄に親しく御拜あらせられた

遙々と故郷をあとに靖國へ靖國へとつどひ上つた全國四万の遺族は、九段の春祭に、惜しげもなく散りし櫻の花びらを袖にちけながら、かねての思ひ、忠義の夫の、忠義のわが子の姿をばつかりと社頭に見るを得た、あのゆば玉の浮間の中を肅々と進んでいつたお羽車、また清らけく閉日さす拜殿の彼方を伏し拜んた遺族たちは、あの日、赤輝深々しく勇んで征つた肉身の燃えるばかりの純忠の魂を、いまぞしみんとわが身に覚えたのであつた

夫よ、わが子よ、たとひこの胸細くとも、この髪白くとも、み國の仇を討ち遂げるまでは、と新祭神に決意雄々しく誓ひつゝ九段の社頭を去つていつた幾万遺族に、われら一億ゆめ投護の手をゆるめてはならない

貯 め 抜 く 道 は い く く ら い も あ る

国民お五のつながりやを更に強化しながら国民貯蓄を達成する最も有力な方法がある。一億国民が揃って簡易保険に入ることだ。国民が連帯組織で結ばれたこの強さを貯蓄決戦態勢だ
七億圓

ボカ／と春陽を浴びて床屋になつたお父さん。パリカン、チキ／、チキンです
中學生以下の男子が一月一回宛の散髪を自宅で行えば、年に四千五百万圓が浮いてきます

二億七千万圓の突撃だ



單位一千五百万圓(彈丸切手例月の発行總額七百五十万枚と想定)



早寝を起床の太鼓がふれまはる。さあ、ラジオ体操だ。老いも若きも健民へ：これまで国民一人當りの醫療費が四圓五十錢、一億では四億五千万圓、これを健民運動で三割節約すれば



零細なものでもあはせれば大きな戦力です。全国の國民學童が一日一人一錢づゝお小遣ひを節約して貯めれば、全兒童數が千二百四十五万ですから、一年に約四千五百万圓になります



貯蓄は節約から更に進んで勤勞で生み出します。それで「國債消化は隣組の内職で」を提唱しますが、東京だけでも十一万六千の隣組があり、一隣組一月百圓宛生み出せば一年で



昭和十三年度調べの出産數は千九百二十万人で、勿論、最近はぐんと増加してゐます。赤ちゃんも米英相手の兵器が欲しい。そこで出産の喜びを記念貯金にかへて二十圓宛書發すれば



貯め抜く道はいくらもある

昨年課税の対象になった国民の遊興飲食費は驚くべきに十二億に上つてゐます。それも悲しいことに年々増上りの勢ひです。言はずもがな、断じてこれを貯蓄へ！ 戦地の苦勞を憶へ



日本古來のゆかしい行事だといつて、華美な飾物を並べなければならぬ必要があるでせうか。精神の美しさを生かし傳へてゆきませう。こんな人形類が年に三千万圓も賣れてゐます



派手な結婚衣装などに見とれてゐてはいけません。もう少し時局を辨へて下さい。昨年は一億五千万圓も豪華な衣装にお金を費つてゐるのです。戦ふ國民の生活には勿體なさ過ぎます



佐藤陸軍軍務局長の談にあるやうに、今度の戦争は生はんか安んじ終る戦争ではない。文字通り民族の興亡を賭した戦争であり、國家の運命はわれ一人々々の運命である。貯蓄の心構へもかゝる自覚から奮起しなければならぬ。われが鬼畜のやうな米英人を相手に果合ひをするとして、一ふりの日本刀もないと知りながら、なほかつ武裝を忘れて酒食に、豪華な衣装に金を費す者があるだらうか。食へものをつめても、まづ日本刀を求め、なほ更に近代兵器の購入にあたるだらう

貯蓄は國民の一人々々がその命を託す兵器をまかなふ費用なのだ。今年の國民所得五百億圓のうち、三百七十億圓が國家目的、即ち戦争完遂のために集中される。この三百七十億のうち、百億圓は租税及びこれと同性質の國民食料となるが、残りの二百七十億はどうしても國民貯蓄でまかなふのだ。今年の貯蓄目標であるこの二百七十億はどうしても貯め抜かす。鈍刀を帯びて戦場に臨むは武士の恥、わが國民性が断じて許さない筈だ

二百七十億へだ撃突ッさ



單位一千五百萬圓(彈丸切手)月の發行總額七百五十萬圓(七)



東京だけでなく、昨年の映畫観客は延人員一億九千万人です。一人料金を五十銭として九千五百万圓。東京だけです。少くとも映畫館を二重三重にとりまいての醜態だけ止めて下さい



日本婦人の美しさは、ごてく盛りたてた脂粉のうちにない筈です。まして昨年中に使はれた紅、白粉代が一億七千万圓にもなると知つたら——さあ國內販路から脂粉を追放させよう



指人形貯金劇に出演

東京
撮影 三輪 作



常會に持ちこまれた俄か送りの舞臺だが「欲しがりません勝つまでは」の台詞も涙々しく可愛らしい指人形が大見得を切ると、どつと哄笑の渦。まあ、オホ、おほ、おほ、和やかな笑ひの中から断然貯め抜くその決意を盛上げようと大日本婦人會貯蓄部の新趣向、二百七十億完遂に指人形も一役の微笑ましい風景である。なほ同部では六月上旬から全国支部の貯蓄指導員にも人形の送り方、演出法、脚本作成などの楽しい講習を行つて常會その他にどん／＼指人形芝居を持ちこみ、可憐な舞臺から主婦たちに、貯めませうと呼びかける

ワタシタチハヨイコドモ、ミンナデチヨキンイタシマセウと指人形がいつてゐる

指人形はおもしろいぞ。僕らも負けず貯金させよう。お母さんもね。

舞臺から抜け出したお人形が「サア指サン二百七十億ニ突撃ヨ」に子供たちも大喜びで「ントウヨ」



「さあ、出番です、もつと赤ちゃんをよりそへたらどう...」楽しい演劇...

新しう貯蓄 三方仕の

今年の貯蓄目標額の二百七十億を分擔する各府縣以下市町村への割當額もすでに決り、目標攻めへの強力な進撃を開始された皆さんは、郵便貯金に、簡易保険に、またはいろいろな國民貯蓄組合やその他の貯蓄を通じて、せつせと戦力増強の貯蓄に邁進されてゐることを思ひますが、政府でもこの目標額をつみ上げ易いようにといろ／＼工夫をして、今年から次ぎのやうな新しい方法が實施されることになりました。この一つは「戦時納税貯蓄」です。

これは税金も國債同様、國家の重要な財源なため、税金を収め易いやうにしようといふので、納税施設といふのが制定されましたが、その一つとして、税金と貯蓄をむすびつけてはじめられるもので、所得税のうち市町村を通じて納めてゐるものと、給料や賞與等のやうな勤勞所得にかけられた分類所得税と、個人の臨時利得税を収めるとき、税金額の二倍(甲種)または三倍(乙種)の貯蓄をすれば税金を納めたことになり、二倍のときは二十年足らずで、三倍のときは十二年足らずで掛けたお金が二つくり戻つてくるといふ仕組みになつてゐるのです。

次に「貯蓄證券の發行」ですが、これは、いつでもいろいろな機會に手軽に貯蓄ができるやうに考へられたもので、貯蓄品や賞品、心づけなどにも使へるやうに、五十銭から五十圓位まで數種類のものが用意されます。貯蓄のための證券ですから、これで品物は買へませんが、前に述べた國債貯金の預入には、郵便局でも銀行でも通用することになります。

さあ、どんな方法でも結構です。新しい意氣込みで、今年も見事に二百七十億を貯め抜いて補給の大任をはたさせよう

椰子の子木の蔭の田植

—ラトマス—



日本の米作をおよそ
た農民の収穫は前にく
らべて二倍増した。こ
こでは収穫と田植が一
つを地に行はれる
景色もめづらしくない

椰子の葉に苗をいれて



今まで種をばら撒いた稻田に組織的な田植がインドネシアの田植現場で



果ては米のつた稲田の見張所では娘と母親が手をまとい一群がる
苗を毎日まきつける

さんくんと照りつける太陽の下でみゆりの多い初ぼし



働くことと楽しいことだと知ったのは日本軍が来てからだつた。
野良に出るころこびは大きい

戦前、荷属印政府はスマトラの農業政策としてゴム、コーヒ、胡椒などの輸出作物の栽培を農民に強制し、徹底的な搾取をす。一方、農民の主要食糧の米は高い外米を輸入して、これを供給してゐた。皇軍占領後、現地自給の建前から、スマトラの農業再編成は米、棉花、胡椒等の増産に切掛へられ、農民たちは日本の指導者の下に協力、食糧増産の一翼をうけようとした。

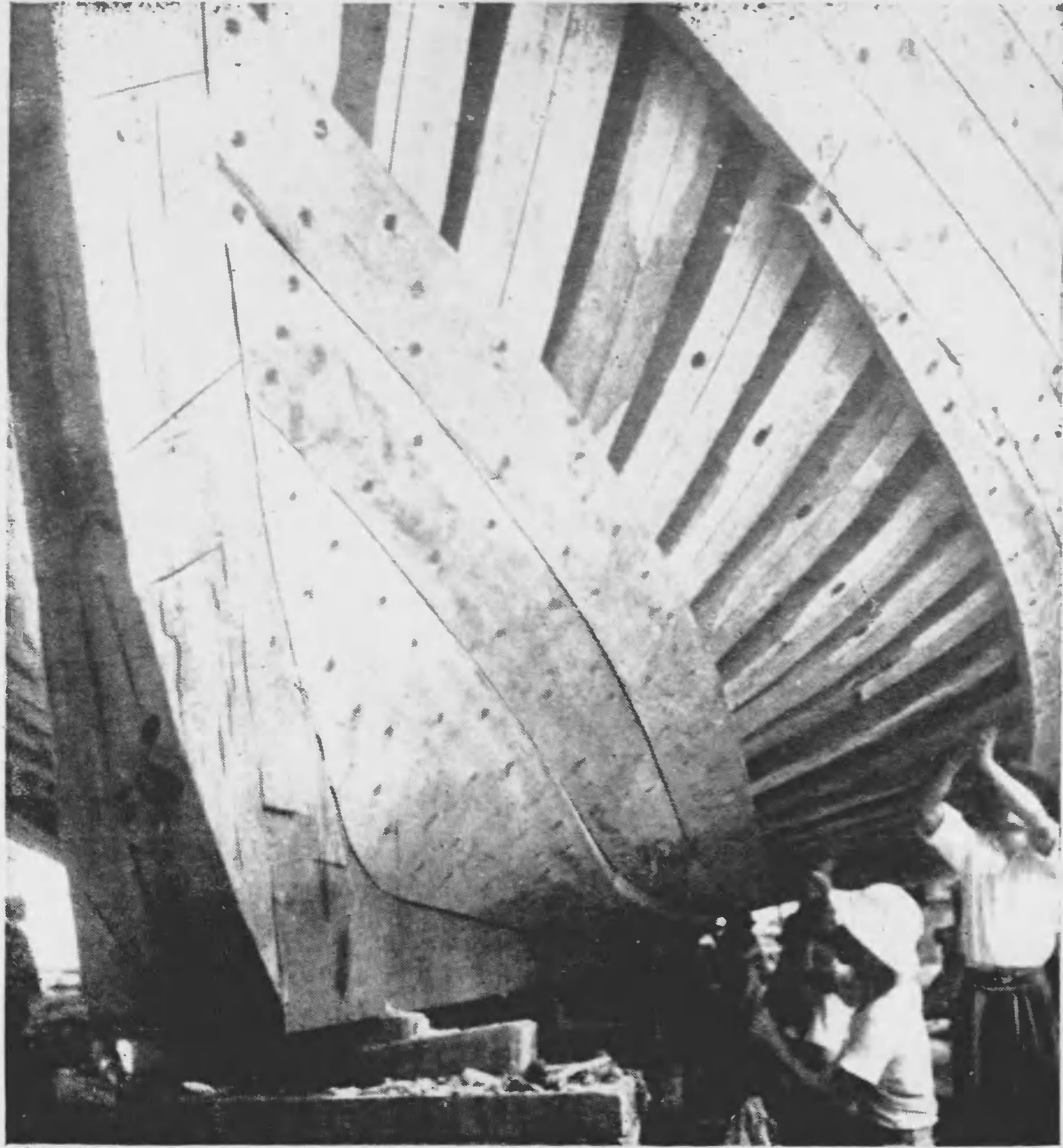
軍政施行以来一年、その努力は報いられた。かつて種をばら撒いて喰ふと野生の米を獲つてゐた米作は、水稲、陸稲とも組織的な収穫法にかはり、二作の収穫すらあけられて、スマトラ各州の自給率も急速に整備されてきてゐる。スマトラ西北部のアチー州をはじめとして西海峽州、パレンバン州、ベンクレーン州などは日本の農作に呼應して、農年満作のうれしい顔をあげてゐる。

撮影 内田隆雄



記事 坪内陸軍報道班員
撮影 龍野陸軍報道班員

世界で三番目の大きい島ボ
ルネオ、その険いノ、大陸の
そななすが、見渡す限りの大
密林に蔽はれてゐるボルネオ
は、官に木材の無限の寶庫だ。
殊に英領時代から木材の輸出
を以て知られた北ボルネオ
は、内地の造船増強運動に呼
應して、いま軍政部の首腦が陣
頭に立つて木造船の建造に大
意である。千古の密林から伐
り出される勿體ないやうなボ
ルネオ産チークや、ラワン等
の造船用材の大本が、原住民
の木造り首領を密林に、研
せながら搬出され、林間鐵道
で河に送られる。そして後に
組んでボルネオの誇りとする
大製材所へ、そして日本人の
指導の下に原住民の船大工達
の必死の努力で、着々と立派
な木造船が造られてゆく。日
本人達も烈日の下、汗を流し
て勤務全仕のお手傳ひである。
かくて、その第一船は日本側
軍官民と原住民たちの感激の
うちに、うる紀元の佳節に進水、
『第五十一ボルネオ丸』と命名
され、續いて第二、第三と續
いて完成、進水し、日を逐う
て加速度的に能率をあげてゐ
る。軍政部首腦以下『木造船
ならボルネオだ』と大した張
りきり方である。



密林から生れ出る日の丸船

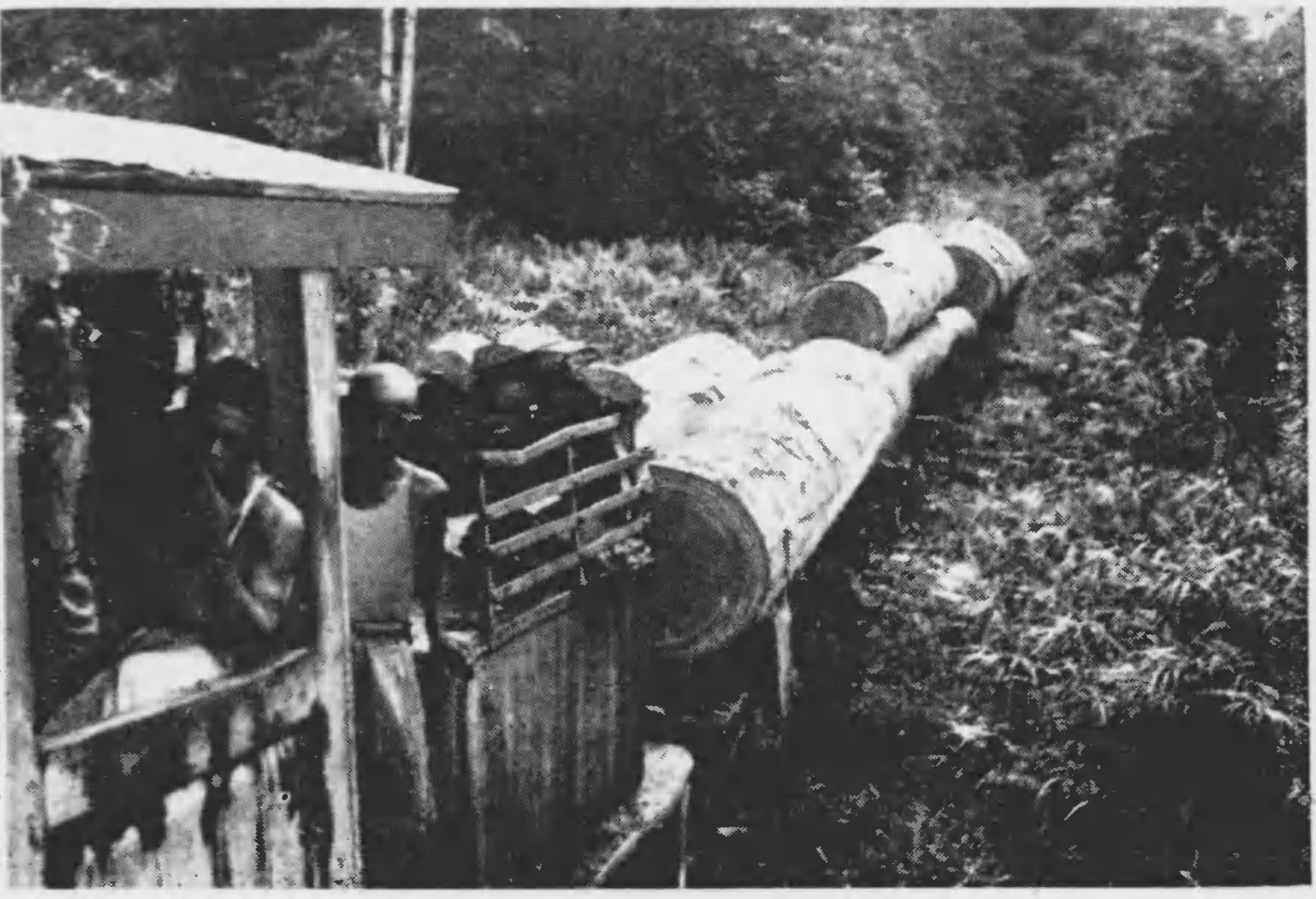
北ボルネオ

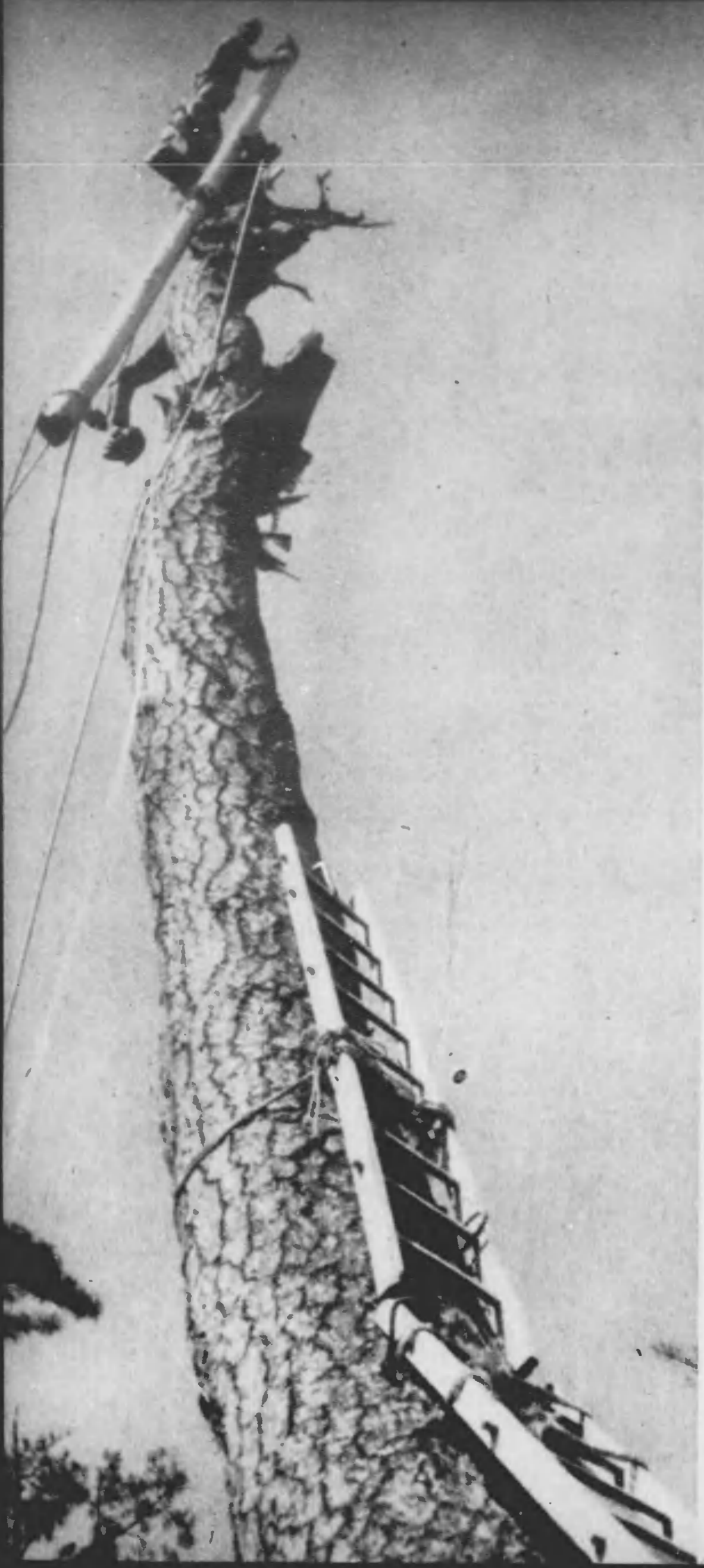
密林の中を林間鐵道はティール
エンジンも景観よく巨村を運んでゆく

現職人の船大工も一生懸命だ。もうさき
船を運ぶわかれの船がこき上るそ



「ボルネオの密林には木造船の工場が建てられ、船を造りだす。木造船の工場は、木造船の工場だ。」





必勝の念願こぼした平松津山市長の発
 津山市の眞實社年團員は繰出で大入車
 に供木を積み、運搬の奉仕をする
 枝とはいへ、二、三十年を纏った位の太
 さのものが降りてくる
 大日本婦人會員も枝拂ひの済んだ枝木
 の運搬に當る
 枝拂ひが済むと丸太ノ棒を幹に結へて
 クレーンにしいよ〜大木の輪切り
 がはじまる



應召する三百歳の松並木

岡山縣津山市 市山津縣山岡

撮影 小石
 二百七十年の樹齡
 を保つた三宮松原
 の名跡地



岡山縣津山市の名跡地三宮松原の並木が、眞實會
 の主催する木材供出の先陣を承つて、米軍撃滅の
 時村として時々の運搬をした
 其を後原、7日お祭れ、鐘が鳴りますお城の
 お山、おまご津山小唄に唄はれ、地元民に親し
 まれてきたこの松並木は、延寶三年(今から二百六
 十九年前)時の城主によつて植ゑられたもので、城
 下の御郡として、また非常時の防壁として、春秋

二百七十年を経て今日に至つた
 二百七十年の樹齡に歴史の末方を眺めてきた由
 緒あるこの松並木は、四月十九日の大入車を先陣
 と受け、引續いて眞實材會社のエーによつて二百三
 十餘木の伐採が續けられてゐる。またこの運搬には
 連日、地元眞實社年團、在郷軍人會、大日本婦人會
 の勤勞奉仕隊が當つてゐるが、これらの人々の汗の
 結晶は、松材にして約三万五千石となる

今日だけは憧れの海就為に

青少年航空隊成部隊の土浦海軍航空隊一日入隊



北海道、青森、福島、山形等々百八十名の青少年航空隊成部隊は雨の中を入隊した



東日本十八道府縣から選ばれた百八十名の青少年航空隊成部隊は三月十九日、憧れの土浦海軍航空隊に「一日入隊」をした

話に聞き、映畫で見、空高く飛んでゐる形は数限りなく見てゐるが、實際にスラリ並ぶ海軍や火の出るやうな訓練を受けてゐる少年飛行兵を目のあたり見ては、さすがの少年航空隊成隊員もその優秀さに、その猛訓練ぶりに目をみはつてしまつた

しかし「われも空に志す若者たち」と感服からわれにかへつた隊成隊員は、兄貴分の飛行兵に負けず飛行服に身を固め、下駄履機で同乗飛行したり、郷里出身の少年飛行兵を団んで、空を語つた

『僕は来年必ずきます』『僕は勿論ですが、弟もまたがつてゐます』『さうか、きつと来いよ。待つとろぞ』とお互に誓ひ合ひ、僅か一、二日の入隊ではあつたが、隊成隊員の空への憧れは決意にまで固く結ばれた

飛行服は少しシブツいてゐるが、敬禮はしつかりしてゐる。操縦者と共に互飛行兵は司令に搭乗の報告をする



「やあ！ 征します」と天晴れ豆飛行兵になりすました隊成隊員は同乗できる喜びに勇んでゐる



百八十名の中から同乗飛行する代表が選ばれたが、この幸運をかち得た子供は隊員の帽子に送られて興奮と空へ飛び立つ



明日は戦くる (七) 米價引上げの朗報を現地に打診



苗代の水が引かれて、岩井春雄(三十二歳)さんは高木さんと田へ入った。いくたびか繰り返した感激と自信が手先までも傳はるやうだ

「ハイッ、ホーッ」かけ聲も景氣よく、あるじの悦びを馬も知ったか、牛も聞いたか、豊年満作の秋をめぐり、はや増産の第一歩は水をけたててはじまった

市橋よし子(二十歳)さんはお母さんと一緒に今日は株おしだ。「これはまだ半人前です」とお母さん、紺がすりの肩がくくと笑った

た農民は秋の牧種を目ざしてもう一歩々々、土に汗する増産進軍だ。根方村の組合長高木改司さんは泥田からあがつたその足で「オーイ」と聲をかけ、働く村人をよびあつめた

「わつしらの勞苦は報はれました。わつしらの勞苦が政府でもよく解つてもらへたことは、なんどしてもうれしいことです。前線と思ふ存分戦つてもらふのも、軍艦や大砲を存分作つてもらふのも、わつしらが米作らんこつちや、どうもなんねえ。どうかまあ、この氣合で、一つ眞剣勝負で米作つてもらえてえもんだ」

わが田を戰場とする皇國農民の不屈不撓の農民魂は明日の増産へ挺身する農家の津々浦々にまで高らかに響きわたつてゐた

お米の買上げ値段が一石六十三圓五十錢と大幅引上げが発表になつた翌日、『寫眞週報』は全國でも米作地として有名な千葉縣利根河畔に朝報打診に出かけてみた

風雲と闘ひ、土とつむむ農民の姿は昨日も今日も變つてはゐない。すでに農繁期に入つた香取郡笹川町根方村の瀬とつとく水田には、牛馬耕が行はれ、苗代が作られ、からつと明け

千葉縣香取郡根方村 撮影 飛田昌哉

「うちのことを案じてゐる戦地の息子どもが、なんしても喜ぶことすて... ありがたうことです。二人の息子を戦地に送つた母の野口つね(五十八歳)さん

「米一升が林檎一つとおなれしころでも、わつしらはやるだけやりました。こんどの値上げがなんばか百姓に勢つけるかわからしねえ」と土屋昌樹(四十二歳)さん



受信

◀ 熊取こめてお米供出 帝國聯合情報課
 越後獅子で知られた新潟県内海原郡のお米供出は、血のにじむ自家保有米二万石餘も加はる見事な成績で三月末をもつて終つたが、丹波こめたお米の應召だけに、出征勇士の贈送ながら、牛車部隊の先頭にはプラスチックまでつけて、盛大にその首途を祝したのだつた



★表紙
 『貯蓄なければ勝利なし』さうだ、貯めばかち...しかし、この決意を笑ひの中から盛り上げようと、東京市ではトランプに『笑ひの兵士』をのせた新案『貯蓄移動演習隊』を編成、先月末から毎日一區三ヶ所の割合で市民に呼びかけてゐる。二百七十億へ突撃だの連軍ラッパが、早くも帝都の空に鳴り響いてゐるのだ...廣瀬中佐演習隊の講演家

◀ 傷兵勇士に軍事訓練
 京都市 小西二一
 京都傷兵軍人職業訓練所受訓生主催の傷兵軍人職業訓練は、このほど府立臨海商業学校でその第四目を實施したが、参加の勇士たちは、身につけた職場精神に物いはせて、むづかしい竹細工講習も難なく征服、再起奉公の熱意を遺憾なく發揮した(中略)



照準器

自慢の織物
 杉 征夫
 『この織物の織造と、貯蓄運動だけが、ハ、イ唯一の持ち物でござんしてす』



賣場の一景
 井崎かすを
 客『新しい洋服服は、何かの御用度ひぢやありませんか』
 店員『洋服を注文したいんですよ』
 客員『やつぱり御心得返いですよ。洋服なら承りますが、断りの電話があまりでしたら、あちらへどうぞ。依頼書がござんしてす』



すへてを貯蓄に
 秋 玲二
 『よい、ドンと早く貯蓄をして貰う方が勝ちだぞ。』
 『オトウチン、マ、エナキヤン、ハ、エナキヤン』



不辨用事堂
 藤原 猛
 『今日の目撃は内閣に大風力をかけて頂戴一枚分儲ひ出してみせるわ。あなたにも手帳つてもらさうと思つたけど、不辨用だから功やお守りむか』

沙千鈴と貯蓄船
 小泉 繁郎
 アサリやハマグリを買つたつもりで『貯蓄貯蓄』をする。小さいながらもこの貯蓄船は海軍軍艦を生むのだ

大東亞戰爭漫遊日誌
 石川 介彦



一億協心貯蓄



五十銀行

頭取 間野 武雄

寫眞週報 昭和十八年五月五日 第一七五號

寫眞週報 (奉納版)

昭和十八年五月五日 印刷發行

編輯者 情報局

東京市豊町一丁目

水田町一丁目

印刷者 内閣印刷局

東京市豊町大字町

一部十錢 (送料一錢)

外國郵送には依り

其の地味は送料共

一部十九錢

▲特別配送郵便希望の方は一部十錢 (送料一錢)の割合を以て前金を添へ御申込下さい

▲特大號の場合は其の部價郵送料金より差額を申受けます

所 達 申	價 定
全國各地官報販賣所	一部十錢 (送料一錢)
書店・購買店	同上
新聞販賣店	同上
寫眞材料店	同上

前線慰問に本誌をお読みになつたら本誌を前線慰問に送りませう。送料は内地と同様で封封あるひは封封にして第三種と明記すれば、一部一錢です

内閣印刷局印刷發行

(列内製紙A4所載定額はより大の書本)